

第Ⅱ期クリーンセンターかしはら
長期包括運営委託事業

入 札 説 明 書

令和6年5月31日

檜 原 市

目 次

1	公告日	1
2	発注者	1
3	担当部局	1
4	事業概要	1
	（1）事業名称	2
	（2）事業場所	2
	（3）事業期間等	2
	（4）限度額	3
5	事業者選定の手続き.....	3
	（1）契約締結までの流れ.....	3
	（2）契約締結までのスケジュール.....	5
	（3）事業者選定委員会の設置.....	6
6	募集要項（第一部）	6
	（1）募集要項（第一部）の構成.....	6
	（2）募集要項（第一部）の配布.....	6
	（3）募集要項（第一部）に関する質疑回答.....	6
7	参加資格要件等	7
	（1）応募者の構成	7
	（2）応募者の参加資格要件.....	7
8	参加資格審査	9
	（1）資格審査申請時の提出書類.....	9
	（2）資格審査申請書類の提出.....	10
	（3）資格審査結果	10
	（4）参加資格の喪失等.....	10
9	募集要項（第二部）	10
	（1）募集要項（第二部）の構成.....	10
	（2）募集要項（第二部）の配布.....	11
10	本件施設の視察.....	11
	（1）本件施設の視察及び参考資料の閲覧等.....	11
	（2）視察等を踏まえた質疑回答.....	11
11	対話の実施	12
	（1）対話の目的	12
	（2）対話要領の送付.....	12

(3) 対話の実施	12
1 2 入札書類の提出.....	13
(1) 入札書類の構成.....	13
(2) 入札書類の提出.....	13
(3) 入札の辞退	14
(4) 入札の無効・失格.....	14
(5) 入札にあたっての留意事項.....	15
(6) 入札書類の修正等の禁止.....	15
(7) 入札書類の取り扱い.....	15
(8) その他	15
1 3 落札者の決定等.....	16
(1) 審査及び落札者決定方法.....	16
(2) 審査結果の通知.....	16
(3) 審査結果の公表.....	16
(4) 落札者決定後の手続.....	16
1 4 入札保証金、契約保証金.....	18
(1) 入札保証金	18
(2) 契約保証金	18
1 5 その他	18
(1) 電子契約について.....	18
(2) 審査結果についての説明請求.....	18
(3) 費用負担	18
(4) 使用言語等	19
別紙1 参考資料	20
別紙2 落札者決定基準.....	21

本入札説明書は、「第Ⅱ期クリーンセンターかしはら長期包括運営委託事業」（以下「本事業」という。）を実施する民間事業者を総合評価一般競争入札により選定するにあたり適用されるものであり、本事業に係る入札の公告に基づく民間事業者の選定等については、関係法令に定めるもののほか、募集要項（入札説明書、要求水準書、基本協定書案、事業契約書案、様式集）によるものとする。

本事業に係る入札に参加することを希望する者は、募集要項に記載された民間事業者の役割を十分理解した上で、募集要項に沿って、本事業の目的に合った条件で、応募資料の作成等を行うものとする。

1 公告日

令和6年5月31日

2 発注者

橿原市長 亀田 忠彦

3 担当部局

本事業に係る入札において、事務を担当する課（以下「事業担当課」という。）は、以下のとおりとする。

橿原市役所 環境部 環境施設課

所在地：〒634-0826 奈良県橿原市川西町1038-2

T E L：0744-27-7757

F A X：0744-27-7753

E-mail：kankyoshisetsu@city.kashihara.nara.jp

4 事業概要

本事業は、収集ごみ、持込ごみ、許可ごみ、他市ごみ及び粗大ごみの破碎可燃残渣等の処理を行うため、本件施設の運営維持管理業務等を実施する事業者として選定された単体企業又は応募グループ（以下「落札者」という。）によって設立された特別目的会社（本事業を実施することのみを目的とした会社で市と事業契約に至った者。以下「受注者」という。）に、本件施設の運転、ユーティリティの確保、日常点検、定期点検、部品等の調達、補修（機器単体の修繕及び定期修繕）等（以下「運営維持管理業務」という。）を委託するものである。

市は、受注者が運営維持管理業務を行う期間（以下「運営期間」という。）にわたって本件施設を所有し、受注者は、本件施設を運営維持管理する。受注者は、本件施設の運営維持管理業務に必要な調達を自ら行うが、本件施設の設計・施工企業（以下「施工企業」という。）からの調達が必要となる部品（以下「特定部品」という。）の調達に際して協力

を求めることができ、その詳細は市と施工企業が取り交わす協定書に基づく。

落札者及び受注者は、令和 6 年度現在で本件施設の運営維持管理業務を実施している事業者（以下「既存運営維持管理事業者」という。）及び市から円滑に業務を引継ぐために必要な準備を行う期間（以下「事業準備期間」という。）にて、既存運営維持管理事業者等からの引継ぎを行う。また、受注者が本件施設にかかる募集要項の記載内容と本件施設の現況との間に著しい乖離を発見した場合、これら乖離に基づく費用負担等を市へ請求できる期間（以下「乖離請求期間」という。）を設定する。

本件施設は、平成 15 年 9 月に供用開始されて以降、約 21 年経過しており、現在まで本件施設の基本性能を発揮し、安全に稼働している施設である。

本事業は、市から、令和 7 年 4 月から令和 20 年 3 月までの 13 年間にわたり、本件施設の運営維持管理業務を委託する事業である。

【ごみ呼称の定義】

収 集 ご み：市が収集する可燃ごみ

持 込 ご み：市及び市民が直接搬入する可燃ごみ、並びに事業活動に伴う一般廃棄物のうち直接搬入される可燃ごみ

許 可 ご み：市の許可業者が搬入する可燃ごみ

他 市 ご み：他自治体から処理の依頼を受けて市が搬入を認めた可燃ごみ

本件廃棄物：収集ごみ、持込ごみ、許可ごみ、他市ごみ及び粗大ごみの破碎可燃残渣等を含めたもの

処理対象物：本件廃棄物から処理不適物を除いたもの

処理不適物：本件施設で処理を行うことが困難又は不相当と判断される廃棄物

（１）事業名称

第Ⅱ期クリーンセンターかしはら長期包括運営委託事業

（２）事業場所

橿原市川西町地内

（３）事業期間等

落札者による準備期間、事業準備期間、乖離請求期間、運営期間及び事業期間は、次のとおりとする。

- ① 落札者による準備期間：基本協定締結日から事業契約締結日の前日まで
- ② 事業準備期間：事業契約締結日から令和 7 年 3 月 31 日まで
- ③ 乖離請求期間：令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで
- ④ 運営期間：令和 7 年 4 月 1 日から令和 20 年 3 月 31 日まで 13 年間

⑤ 事業期間：事業契約締結日から令和 20 年 3 月 31 日まで

(4) 限度額

10,446,428,000 円（消費税及び地方消費税は含まず）。

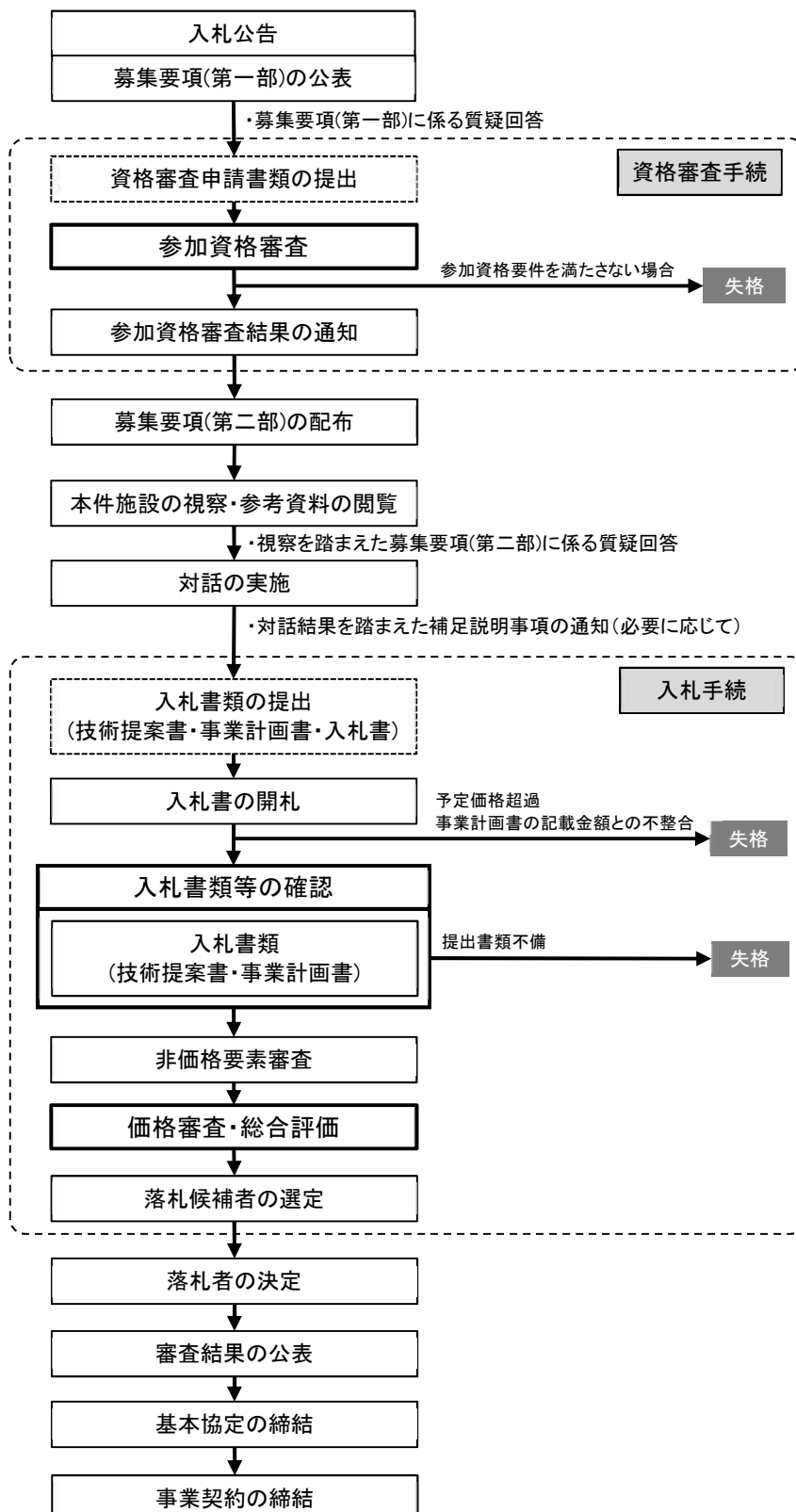
ただし、消費税及び地方消費税を加えた額は、11,491,070,800 円。

5 事業者選定の手続き

(1) 契約締結までの流れ

入札公告から契約締結に至るまでの流れは図表 1 のとおりであり、民間事業者が募集要項に規定する本事業に参画するに足る資格を有していることを条件に、地方自治法施行令（昭和 22 年政令第 16 号）第 167 条の 10 の 2 の規定に基づく総合評価一般競争入札方式により事業者の選定を行う。

図表 1 契約締結までの流れ



(2) 契約締結までのスケジュール

契約締結に至るまでのスケジュール（予定）は図表２のとおりである。

ただし、橿原市の休日を定める条例（平成元年橿原市条例第２号）に規定する市の休日（以下「市の休日」という。）には、受付等を行わない。

図表２ 契約締結までのスケジュール(予定)

No.	項目	日程
①	入札公告	令和６年５月３１日
②	募集要項（第一部）の公表	令和６年５月３１日
③	募集要項（第一部）質疑の受付	令和６年５月３１日～６月１０日
④	募集要項（第一部）質疑に対する回答	令和６年６月１８日
⑤	参加資格確認申請書の受付	令和６年６月１８日～６月２５日
⑥	参加資格確認結果の通知	令和６年７月２日
⑦	募集要項（第二部）の配布	令和６年７月２日
⑧	本件施設の視察及び参考資料の閲覧	令和６年７月９日～７月１２日
⑨	視察等を踏まえた質疑の受付	令和６年７月１６日～７月２２日
⑩	視察等を踏まえた質疑に対する回答	令和６年７月２９日
⑪	対話の実施	令和６年８月２０日
⑫	対話結果を踏まえた補足説明事項の通知（必要に応じて）	令和６年８月２８日
⑬	入札書類（技術提案書・事業計画書等）の受付	令和６年９月２７日
⑭	開札	令和６年９月２７日
⑮	総合評価の実施	令和６年１０月中旬
⑯	落札者の決定	令和６年１１月
⑰	基本協定締結	令和６年１１月
⑱	事業契約締結	令和７年２月

なお、上記スケジュール（予定）は応募者の応募資料提出の状況、橿原市一般廃棄物処理施設長期包括運営委託事業者選定委員会（以下「事業者選定委員会」という。）の審査の進捗状況等により変更する可能性がある。

(3) 事業者選定委員会の設置

市は「橿原市執行機関の附属機関に関する条例」第2条の規定に基づき、事業者選定委員会を設置する。事業者選定委員会の構成は、図表3のとおりである。

(敬称略)

図表3 事業者選定委員会の構成

氏名	所属・役職等
荒井 喜久雄	元 公益社団法人 全国都市清掃会議 技術指導部長
安田 憲二	元 一般社団法人国際環境研究協会 環境研究総合推進費プログラムオフィサー
荒川 雄次	弁護士
堀内 伸浩	公認会計士
高橋 佳嗣	橿原市 環境部長

6 募集要項（第一部）

(1) 募集要項（第一部）の構成

募集要項（第一部）は以下の書類により構成される。

これらの書類は応募資料を作成するにあたっての条件であり、契約締結時に契約関係当事者を拘束する条件となるものである。

- ① 入札説明書
- ② 要求水準書
- ③ 様式集

(2) 募集要項（第一部）の配布

募集要項（第一部）は、令和6年5月31日(金)から橿原市ホームページで公表する。

(3) 募集要項（第一部）に関する質疑回答

① 質疑の受付

ア. 受付期間：令和6年5月31日(金) から6月10日(月) 17時まで

イ. 質疑の方法

募集要項（第一部）について質疑のある者は、「募集要項（第一部）に関する質疑書」（様式第一号①～③）に、その内容を簡潔に記載し、3に示した事業担当課の電子メールアドレス宛に送信すること。電子メールの送信にあたっては、表題は「募集要項（第一部）に関する質疑」とし、3に示した事業担当課の電話番号に受理確認の

連絡を行うこと。持込み、郵送、FAX、電話等による質疑は受付けない。

② 質疑に対する回答

ア. 回答日：令和6年6月18日（火）

イ. 回答方法

回答は橿原市ホームページにて公表する。なお、本事業に直接関係するもののみ回答を行うものとし、すべての質疑に回答するとは限らない。また、市が回答した内容は、契約締結時に契約関係当事者を拘束する条件となる。

7 参加資格要件等

（1）応募者の構成

- ① 応募者は、本件施設の運営維持管理業務等を実施する予定の単体企業（以下「応募企業」という。）又は複数の企業によって構成されるグループ（以下「応募グループ」という。）とする。また、応募者は、応募企業、応募グループを構成する企業（以下「構成企業」という。）、協力会社（応募企業又は構成企業以外の者で、事業開始後、受注者から運営維持管理業務の一部を請負又は受託することを予定している者をいう。）が本事業の遂行上果たす役割等を明らかにする。
- ② 応募企業又は構成企業は、特別目的会社に出資を行い、本店住所地为奈良県橿原市内とする特別目的会社を設立すること。ただし、応募企業又は構成企業が、既に本件施設の運営維持管理業務を実施するために、特別目的会社を設立している場合は、この限りではない。
- ③ 応募グループにあつては構成企業から代表となる企業（以下「代表企業」という。）を定めるとともに、当該代表企業が応募手続を行うこと。なお、応募企業は代表企業を兼ねる。
- ④ 代表企業及び構成企業の変更は認めない。ただし、特段の事情があると市が認めた場合は、この限りではない。
- ⑤ 応募企業又は構成企業が、他の応募企業又は構成企業となることは認めない。
- ⑥ 財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則（昭和38年大蔵省令第59号）第8条第8項に規定する関係会社に該当する各法人は、それぞれ他の応募者として参加することはできない。
- ⑦ 同一応募者が複数の提案を行うことは禁止する。

（2）応募者の参加資格要件等

① 参加資格に関する要件

応募者は、以下のすべての要件を満たすこととする。

- ア. 応募企業又は応募グループの代表企業は、令和 6 年度櫃原市入札参加資格者名簿に登載されている者であって、本事業の資格審査申請書等の提出日から入札書の開札日までの期間に、櫃原市入札参加資格停止要綱（平成 14 年 11 月 1 日告示第 208 号）による入札参加資格等の停止措置を受けている者でないこと。
- イ. 櫃原市契約における暴力団排除に関する要綱（平成 24 年 7 月 18 日告示第 175 号）に基づく措置要件に該当する者でないこと。
- ウ. 地方自治法施行令（昭和 22 年政令第 16 号）第 167 条の 4 の規定に該当しない者であること。
- エ. 本件資格審査書類提出日以前 2 年以内に電子交換所（旧：手形交換所）による取引停止処分を受け、又は 6 ヶ月以内に不渡手形若しくは不渡小切手を出していない者であること。
- オ. 会社法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（平成 17 年法律第 87 号）による改正前の商法（明治 32 年法律第 48 号）第 381 条の規定による整理開始の申立て若しくは通告、会社法（平成 17 年法律第 86 号）第 511 条に基づく特別清算開始の申立て、旧破産法（大正 11 年法律第 71 号）第 132 条若しくは第 133 条の規定による破産の申立て、破産法（平成 16 年法律第 75 号）第 18 条若しくは第 19 条の規定による破産手続開始の申立て、旧和議法（大正 11 年法律第 72 号）第 12 条の規定による和議開始の申立て、旧会社更生法（昭和 27 年法律第 172 号）第 30 条の規定による更生手続開始の申立て、会社更生法（平成 14 年法律第 154 号）第 17 条の規定による更生手続開始の申立て、又は民事再生法（平成 11 年法律第 225 号）第 21 条の規定による再生手続開始の申立てがなされている者（ただし、旧会社更生法又は会社更生法に基づく更生手続開始の決定日以降の日を審査基準日とする建設業法第 27 条の 23 第 1 項に規定する経営に関する客観的事項の審査を受け、その結果の通知を受けたものを除く。）でないこと。
- カ. 本事業に関する市の発注支援業務を令和 5 年度に受注した一般財団法人 日本環境衛生センター及び同法人が本業務において提携関係にある西村あさひ法律事務所又はこれらの者と資本面若しくは人事面で関係がある者でないこと。資本面で関係のある者とは、一方の会社が他方の会社の発行済株式総数の 100 分の 50 を超える株式を有し、又はその出資の総額の 100 分の 50 を超える出資をしている場合をいい、人事面で関係のある者とは、一方の会社の代表権を有する役員が他方の会社の代表権を有する役員を兼ねている場合をいう。
- キ. 5（3）に記載する「櫃原市一般廃棄物処理施設長期包括運営委託事業者選定委員会」の委員と現在、利害関係又は雇用関係にある者でないこと。
- ク. 法人税、消費税、法人事業税及び法人住民税を滞納している者でないこと。

② 業務実績に関する要件

応募者は以下のすべての要件を満たすものとする。応募グループで参加する場合は、構成企業全体で以下のすべての要件を満たすものとする。

関連設備	要件
焼却炉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方公共団体^{※1} が管理する一般廃棄物処理施設で全連続燃焼式焼却炉（ストーカ式）の運転・維持管理業務（定期修繕を含む）^{※2} の元請実績^{※3}を有すること。 ・ 地方公共団体が管理する一般廃棄物処理施設で全連続燃焼式焼却炉（ストーカ式）のボイラ及び復水式タービン（1,000kW 以上）の運転・維持管理業務（定期修繕を含む）の元請実績を有すること。

※1 地方公共団体とは、地方自治法第1条の3に規定する普通地方公共団体（都道府県、市町村）及び特別地方公共団体（地方公共団体の組合、財産区、及び地方開発事業団）をいう。

※2 全連続燃焼式焼却炉（ストーカ炉）の維持管理業務とは、ストーカ本体の取替業務を含むストーカ式焼却炉の機能の回復を図る業務をいう。

※3 元請実績とは、自らが地方公共団体から直接に業務を請け負った実績、又は自らが構成企業となって設立した特別目的会社が地方公共団体から直接に業務を請け負った実績をいう。

8 参加資格審査

市は、応募者の参加資格の確認を行うために資格審査を実施する。応募者は次に従って参加資格確認の申請を行い、審査を受けるものとする。この場合、参加資格確認基準日は資格審査申請書類の提出日とする。

（1）資格審査申請時の提出書類

資格審査申請書類は以下のとおりとする。提出書類の様式は、橿原市ホームページからダウンロードすることができる。

- ① 参加資格確認申請書（様式第二号）
- ② 応募者の構成及び協力会社の役割（様式第三号①、②－1、②－2）
- ③ 委任状（代表企業に入札手続等を委任するもの）（様式第四号）
- ④ 運転・維持管理業務等の実績（様式第五号）
- ⑤ ④を証明する書類
- ⑥ 履歴事項全部証明の写し（法務局が証明したもの）
（応募者を構成するすべての企業について必要（ただし法人事業者に限る））

- ⑦ 誓約書（様式第六号①、②）
（応募者を構成するすべての企業について必要）
（様式第六号②は企業ごとに2部ずつ必要）
- ⑧ 納税証明書（直近1年間の未納の税額がないことを証するもの）
 - ・ 7（2）① ク．を証するもので、応募者を構成するすべての企業について必要とし、受任営業所で申請の場合は本店分・営業所分双方が必要。
 - ・ 証明書は証明年月日が参加資格申請書の提出日から3カ月前の日以降のもので、写しでもよいものとする。
- ⑨ 応募企業又は応募グループの代表企業が令和6年度の「橿原市入札参加資格者名簿」に登載されている者であることを証する書類

（2）資格審査申請書類の提出

資格審査申請書類は、正本1部をA4版フラットファイル2穴に綴じて、以下のとおり持参すること。

- ① 受付期間：令和6年6月18日（火）から令和6年6月25日（火）まで
- ② 受付時間：開庁時間中
- ③ 受付場所：事業担当課

（3）資格審査結果

資格審査結果は、令和6年7月2日（火）に書面（「参加資格審査結果通知書」）を電子メールにて送信し、代表企業に通知する。また、参加資格審査結果通知書にて入札参加者記号も通知する。

（4）参加資格の喪失等

応募者は次の各号に該当する場合に参加資格を喪失する。この場合、市は参加資格を喪失した応募者が手続き等に要した費用の一切の負担を行わない。

- ① 資格審査申請書類及び入札書類等その他一切の書類に虚偽の記載をした場合
- ② 応募者を構成する企業が、資格審査申請書類の提出日から入札書の開札日までの間に、7（2）に掲げる資格を欠くこととなった場合

9 募集要項（第二部）

（1）募集要項（第二部）の構成

募集要項（第二部）は、以下の書類により構成される。これらの書類は入札書類を作成

するにあたっての条件であり、契約締結時に契約関係当事者を拘束する条件となるものである。

- ① 基本協定書（案）
- ② 事業契約書（案）

（２）募集要項（第二部）の配布

募集要項（第二部）については、資格審査を通過した応募者（以下「参加資格者」という。）の代表企業に対して、８（３）に示す通知とともに送信する。

１０ 本件施設の視察

（１）本件施設の視察及び参考資料の閲覧等

参加資格者は、本件施設の視察を行うことができる。また視察時において、別紙１に示す参考資料の配布及び閲覧を認めるものとする。申込みを行った者のうち参加資格者の代表企業に対し、令和６年７月５日（金）に「施設視察案内」を送付する。

- ① 申込期間：令和６年７月２日（火）から令和６年７月４日（木）
- ② 申込方法：希望する内容に応じて、下記様式を事業担当課まで電子メールにて提出すること
 - ・本件施設の視察申込書（様式第七号）
 - ・参考資料の配布申込書（様式第八号）
 - ・参考資料の閲覧申込書（様式第九号）
- ③ 視察日：「施設視察案内」に記載
（令和６年７月９日（火）から令和６年７月１２日（金）までの期間において、申込希望日を参考に調整し、指定する。視察は原則１日とする。）
- ④ 集合時間：「施設視察案内」に記載
- ⑤ 集合場所：クリーンセンターかしはら
- ⑥ 視察方法：視察は参加資格者ごとに行う。視察人数に上限は設けないが、５名程度を目安に過大な人数とならないよう配慮すること。また、本件施設の視察時に、参考資料の配布・閲覧を行うため、視察予定者と資料配布・閲覧の申請者は基本的に同一とすること。

（２）視察等を踏まえた質疑回答

① 質疑の受付

ア．受付期間：令和６年７月１６日（火）から７月２２日（月）１７時まで

イ. 質疑の方法

募集要項（第二部）及び施設視察についての質疑のある参加資格者は、代表企業が取りまとめて、「募集要項（第二部）に関する質疑書」（様式第十一号①～②）及び「視察等を踏まえた質疑書」（様式第十一号③）に、その内容を簡潔に記載し、3に示した事業担当課の電子メールアドレス宛に送信すること。送信にあたっては、表題は「視察等を踏まえた質疑」とし、3に示した事業担当課の電話番号に受理確認の連絡を行うこと。持参、郵送、FAX、電話等による質疑は受付けない。

なお、参考資料に関する質問は、原則受付けないものとする。

② 質疑に対する回答

ア. 回答日：令和6年7月29日（月）

イ. 回答方法

代表企業宛に電子メールにて回答する。なお、本事業に直接関係するもののみ回答を行うものとし、すべての質疑に回答するとは限らない。また、市が回答した内容は、契約締結時に契約関係当事者を拘束する条件となる。

1.1 対話の実施

本件入札の参加資格者に対して、以下のとおり対話を実施する。

（1）対話の目的

応募者が本事業に関する市の発注意図を十分理解した上で技術提案を行えるよう、市と応募者において対話を実施する。応募者と対話を行うことで、事業条件等に関する認識の齟齬を未然に解消し、要求水準の確実な達成と応募者の更なる創意工夫を引き出すことを目的とする。

（2）対話要領の送付

対話に参加する者（以下「対話参加者」という。）は、資格審査結果通知後、令和6年7月4日（木）までに「対話申込書」（様式第十号）を電子メールにて事業担当課へ提出すること。申込みを行った者のうち参加資格者の代表企業に対し、視察等を踏まえた質疑の回答と同時に市より対話要領を送付する。対話要領において、当日の対話の実施概要について示す。

（3）対話の実施

市と対話参加者は、対話用資料等をもとに、令和6年8月20日（火）（予定）に対話を行う。

12 入札書類の提出

(1) 入札書類の構成

参加資格者は入札書及び本事業に対する提案内容を記載した提案書類（以下「入札書類」という。）を提出する。（入札書類を提出した参加資格者を「入札参加者」という。）入札書類の構成は以下のとおりとする。提出書類の様式は、橿原市ホームページからダウンロードすることができる。

- ① 提案書類提出書（様式第十二号）
- ② 技術提案書（様式第十三号）
- ③ 事業計画書（様式第十四号）
- ④ 入札書（様式第十五号）
- ⑤ 委任状（代理人が入札する場合）（様式第十六号）
- ⑥ 誓約書（様式第十七号）

(2) 入札書類の提出

① 提案書類の提出

（1）に示す入札書類のうち、①②③⑥をA4版フラットファイル2穴に綴じて、正本1部、副本13部を作成し、正本の電子データ（③はExcel形式とする）を収納したCD-R3部と併せて、以下のとおり持参すること。

副本の表紙及び内容には、様式内に別途指示がある場合を除き、応募者を直接的に特定できる記述(会社名やロゴマークなど)は行わないこととし、資格審査結果通知書に記載されている入札参加者記号を記入すること。

ア. 受付日：令和6年9月27日（金）

イ. 受付時間：9時から14時まで

ウ. 受付場所：事業担当課

エ. 注意事項

CD-Rには、電子データで提出が可能なものを格納すること。

② 入札書の提出及び開札

（1）に示す入札書類のうち、④⑤について各々正本1部を持参し、以下のとおり開札を行う。

ア. 開札日時：令和6年9月27日（金）15時

イ. 開札場所：リサイクル館かしはら3階 入札室

ウ. 注意事項

- ・ 入札執行回数は1回までとする。

- ・ 開札結果は入札が有効かどうかのみを発表する。
- ・ 開札は入札参加者又はその代理人立会いのもとで行うものとする。
- ・ 入札書に記載された金額に 100 分の 110 を乗じた金額が、予定価格（消費税及び地方消費税を加えた額）を超えた場合は失格とする。
- ・ 入札書に記載された金額が、事業計画書（様式第十四号（１））の（Ａ）事業費計に記載の金額（税抜）と不整合の場合は、失格となるので留意すること。
- ・ 入札書は下記の封筒様式を参照の上、厳封し提出すること。

入札書在中	
檀原市長 亀田 忠彦 様 事業名 第Ⅱ期クリーンセンターかしはら長期包括運営委託事業	<div style="text-align: right;">入札参加者記号 _____</div> <div style="text-align: right;">代表企業代表者又は代理人 商号又は名称 _____</div> <div style="text-align: right;">住 所 _____</div> <div style="text-align: right;">氏 名 _____ 印</div>

印

印

印

（３）入札の辞退

参加資格者は、入札書類の提出前であれば入札を辞退することができる。辞退する場合は、直ちに「入札辞退届」（様式第十八号）を事業担当課に持参すること。

（４）入札の無効・失格

- ① 次の各号に該当する入札は、無効又は失格とする。
- ・ 入札書に記名押印を欠く入札
 - ・ 入札書の重要な文字の誤脱等により必要な事項を確認できない入札
 - ・ 同一入札者がなした２以上の入札
 - ・ 入札金額を訂正した入札又は判読し難いと認められる入札
 - ・ 入札に際して、公正な入札の執行を害する行為をなした者の入札

- ・ 入札に関し談合等の不正行為をした者の入札
- ・ 係員の指示に従わない等入札室の秩序を乱した者の入札
- ・ その他入札条件に違反した入札

また、入札参加者が、入札書の開札日の翌日から落札者決定の日までの間に、7（2）に掲げる資格を欠くこととなった場合は当該入札参加者の入札を無効とする。この場合、7（2）①ア中の「入札書の開札日」とあるのは「落札者決定の日」に読み替えるものとする。

（5）入札にあたっての留意事項

入札にあたっては、入札参加者は「私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号）」に抵触する行為を行ってはならない。また、公正に入札を執行できないと認められる場合又はそのおそれがある場合は、市は、当該入札参加者を入札に参加させず又は入札の執行を延期又は取りやめることがある。なお、後日、不正な行為が判明した場合には、契約の解除等の措置をとることもある。

また、その他、市が必要と認めたときは、入札手続きを延期、中止、又は取消すことがある。

（6）入札書類の修正等の禁止

入札書類の提出後の修正、差替え、再提出又は撤回をすることは認めない。ただし、この規定は審査の過程において、市がこれらの書類の明瞭化作業を行うことを妨げない。

（7）入札書類の取り扱い

① 著作権

本事業に関する提案書類の著作権は入札参加者に帰属するものとし、市は、審査結果の公表以外には使用しないものとする。ただし、選定された事業者の提案書類は、特に市が必要と認める時には、提案書類の全部又は一部を無償で利用できるものとする。なお、入札参加者からの提出書類については返却しないものとする。

② 特許権等

提案内容に含まれる特許権、実用新案権、意匠権、商標権等に日本国の法令に基づいて保護される第三者の権利の対象となっている事業手法、工事材料、施工方法、維持管理方法等を使用した結果生じた責任は、提案を行った入札参加者が負うものとする。これによって市が損失又は損害を被った場合には、当該入札参加者は市に対して当該損失及び損害を補償及び賠償しなければならない。

（8）その他

市は、入札書類の提出があった時点で、入札参加者の名称等を公表することができるも

のとする。

1 3 落札者の決定等

(1) 審査及び落札者決定方法

別紙2に示す「落札者決定基準」に基づき、以下により審査を行い落札者が決定される。

① 非価格要素審査

参加資格者のうち、有効な入札書を提出したことが開札によって確認された応募者（以下「最終審査対象者」という。）を対象に、非価格要素について事業者選定委員会において審査を行い、非価格要素点を決定する。非価格要素審査時には、最終審査対象者に対してヒアリング（入札参加者によるプレゼンテーション、質疑応答等）を実施する。

② 価格審査

最終審査対象者の入札価格について、落札者決定基準により価格点を算出する。

③ 総合評価

①で決定した非価格要素点と②で算出した価格点から、落札者決定基準により事業者選定委員会において総合評価点を算定し、42点以上の非価格要素点を有する者のうち、総合評価点の最も高い者を選定する。

なお、総合評価点の最も高い者が2人以上あるときは、当該者にくじを引かせて順位を決定する。

④ 落札者の決定

市は事業者選定委員会の審査をもとに「落札者」を決定する。

(2) 審査結果の通知

審査結果は、最終審査対象者に対して文書で通知する。

(3) 審査結果の公表

審査結果については、審査結果通知後すみやかに、橿原市ホームページにて公表する。

(4) 落札者決定後の手続

① 基本協定の締結

市と落札者は、落札者決定後、基本協定を締結する。

② 契約詳細の協議

市と落札者は事業契約締結のために、その詳細について協議を行うものとする。なお、契約詳細の協議は、事業契約書案の調整を行うものであり、募集要項に規定され

た内容及び条件の変更は行わない。

③ 事業契約の締結

市は、本件施設の運営維持管理業務を担当させるために、落札者が会社法（平成 17 年法律第 86 号）に定める株式会社として適法に設立した事業会社たる特別目的会社（以下「本件会社」という。）と、本事業にかかる事業契約を締結する。

本件会社に関しては、次の各号に定める事項を満たすこと。

- ア. 本件会社の本店住所を奈良県橿原市とすること。
- イ. 応募企業又は構成企業全員が出資を行うこと。
- ウ. 応募企業以外の者又は構成企業以外の者は出資を行わないこと。
- エ. 本件会社の担当する業務は、本件施設の運営維持管理業務とすること。
- オ. 落札者が応募企業の場合は、株式保有割合が、事業期間を通じて 100 分の 100 とすること、又は落札者が応募グループの場合は、代表企業の株式保有割合が、事業期間を通じて 100 分の 50 を超えるものとすること。かつ、代表企業が本件会社の株主総会における全議決権の 2 分の 1 を超える議決権を保有すること。
- カ. 本件会社の資本金額は金 3,000 万円以上とし、事業期間を通じてこれを維持すること。
- キ. 本件会社は、会社法（平成 17 年法律第 86 号）の定めに従い、会計監査人を置く株式会社とし、事業期間を通じてこれを維持すること。
- ク. 事業契約上の市の本件会社に対する業務履行請求権を担保するため、本件会社の株式の上に、市のために第一順位の根質権を設定し、当該第一順位株式根質権の設定の対抗要件を具備するために必要な措置をとるほかは、本件会社の株主は、原則として事業契約が終了するまで本件会社の株式を保有することとし、市の事前の書面による承諾なくして本件会社の株式の譲渡、これに対する担保権の設定その他の処分を行わないこと。
- ケ. 株主は、本件会社が債務超過に陥った場合、又は資金繰りの困難に直面した場合には、連帯して本件会社への追加出資又は劣後融資その他の本件会社に対する財政的支援措置を講じること。その他適切な支援措置を講ずることにより、本件会社が本事業における果たすべき債務を履行できるように努力すること。
- コ. 本件会社について、運営維持管理業務を実施するための人員を確保すること。

④ その他

落札者が落札者決定の日の翌日から基本協定締結の日までの間に 7（2）に掲げる資格を欠くこととなった場合、又は落札者が基本協定及び事業契約を締結しない場合は、最終審査対象者の中から 1 3（1）③の総合評価における順位付けの高い者から順に契約協議を行い、入札金額の制限内で、事業期間を除くほか当初競争入札に付するときに定めた条件の範囲内にて、随意契約を行うことができる。この場合、7（2）

①ア中の「入札書の開札日」とあるのは「基本協定締結の日」に読み替えるものとする。

1 4 入札保証金、契約保証金

(1) 入札保証金

免除とする。ただし、落札者が正当な理由なく基本協定を締結しないときは、橿原市契約規則第 13 条第 2 項に規定する違約金を徴収するものとする。

(2) 契約保証金

受注者は、契約締結と同時に契約金額の 100 分の 10 に相当する額以上の契約保証金又はこれに代わる保証等の担保を市に納めなければならない。

1 5 その他

(1) 電子契約について

市では、電子契約サービス「クラウドサイン」を利用した電子契約に対応している。電子契約では、契約締結時に印紙税、郵送費用等が不要となる。

契約書類について電子契約を希望する参加資格者は、令和 6 年 9 月 26 日(木)までに、電子契約利用申出書(様式第十九号)を事業担当課まで提出すること。

(2) 審査結果についての説明請求

資格審査を通過しなかったもの及び落札者とならなかったものは、その理由について市に対して説明を求めることができる。

① 説明請求の期日等

審査結果についての説明を求める場合には、市が審査結果を通知した日の翌日から起算して 10 日以内(期間中の市の休日を除く。)に事業担当課へ書面(書式は自由)を提出することにより、説明請求を行うものとする。受付は持参のみとし、受付時間は 9 時から 17 時までとする。

② 説明請求に対する回答

説明を求めたものに対する回答は、説明請求を受けた日の翌日から起算して 7 日以内(期間中の市の休日を除く。)に書面により行う。

(3) 費用負担

本入札説明書による上記すべての手続に関しては、応募者は自らの責任と費用負担に

よりこれを行う。

(4) 使用言語等

本入札説明書に用いる言語は日本語とする。また入札書類、質疑、審査等における通貨は円、単位はメートル法とする。本入札説明書に関して用いる日時は、日本標準時とする。

別紙 1 参考資料

(1) 配布資料

以下の資料については、参加資格者に対して配布する。

- ・ フローシート
- ・ 機器配置図
- ・ 事業費履歴

(2) 閲覧資料

以下の資料については、参加資格者に対して閲覧を認める。

- ・ 竣工図
- ・ 総合取扱説明書
- ・ 単体取扱説明書
- ・ 引渡性能試験結果報告書
- ・ 試運転報告書
- ・ 予備品・消耗品・工具リスト
- ・ 給油リスト
- ・ 机上教育資料
- ・ 過去の補修履歴・修繕費データ
- ・ 運転データ（過去実績）
- ・ 電力及び熱（蒸気）の供給条件
- ・ 自家用電気工作物保安規程
- ・ ごみ質分析結果
- ・ ダイオキシン作業環境測定結果
- ・ 施設長寿命化計画
- ・ クリーンセンターかしはら事故対応マニュアル
- ・ 橿原市災害廃棄物処理計画
- ・ 橿原市災害廃棄物処理実施マニュアル
- ・ 余熱利用施設に関する資料

別紙２ 落札者決定基準

１ 総合評価の方法

最終審査対象者について、「価格点」と「非価格要素点」の合計によって「総合評価点」を算出し、４２点以上の非価格要素点を有する者のうち、総合評価点が最も高い者を、落札者とする。

$$\text{総合評価点} = \text{価格点} + \text{非価格要素点}$$

総合評価点は１００点を満点とする。

価格点と非価格要素点の比率は、３０：７０とする。

２ 価格点の算出方法

各最終審査対象者の入札価格について、以下の算式に基づいて価格点を算出する。

A：限度額（円／税抜）

B：インセンティブ分界価格（円／税抜）

X：入札価格（円／税抜）

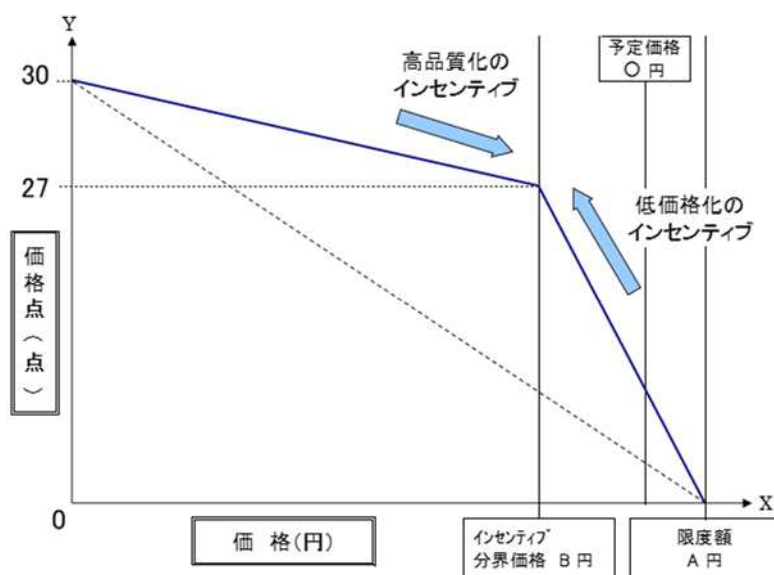
Y：価格点（点）

① $0 \leq X \leq B$ のとき

$$Y = (-3 / B) X + 30$$

② $B < X$ のとき

$$Y = (-27 / (A - B)) (X - A)$$



本件入札に係る設定値は以下のとおりとする。

$$A = \text{¥}10,446,428,000 \quad B = \text{¥}8,980,838,000$$

① $0 \leq X \leq B$ のとき

$$Y = (-3 / 8,980,838,000) X + 30$$

② $B < X$ のとき

$$Y = (-27 / 1,465,590,000) (X - 10,446,428,000)$$

3 非価格要素点の算出方法

(1) 評価項目と配点

非価格要素の評価項目及び配点は以下のとおりとする。

図表 1 評価項目及び配点

評価項目	評価の視点		配点	
業務実施体制	1-1	<ul style="list-style-type: none"> 代表企業の役割 構成企業、協力会社の役割分担 	3	11
	1-2	<ul style="list-style-type: none"> 所長の役割 法定有資格者の配置 運営人員体制 	4	
	1-3	<ul style="list-style-type: none"> 特別目的会社に対する代表企業の支援体制 緊急時に備えた体制 	2	
	1-4	<ul style="list-style-type: none"> 業務従事者への教育訓練方法 	2	
受入・運転管理 業務にかかる計画	2-1	<ul style="list-style-type: none"> 受入管理業務における配慮事項 	3	13
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> 運転計画における配慮事項 セルフモニタリング計画 	5	
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> 公害防止基準等（排ガス等）の施設基準値、法規制値と基準値の達成に向けた工夫等 	5	
維持管理業務 にかかる計画	3-1	<ul style="list-style-type: none"> 主要設備の補修に対する考え方 維持補修計画の適切性 	10	14
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> 運営期間における大規模修繕を回避するための工夫 	4	
リスクへの 対応能力	4-1	<ul style="list-style-type: none"> 施設の安全対策の考え方 プラントの事故対応の考え方 	3	7
	4-2	<ul style="list-style-type: none"> 労働安全衛生の考え方 作業環境の考え方 	2	
	4-3	<ul style="list-style-type: none"> 事業継続計画における基本的な考え方 	2	
財政的な 安定性	5-1	<ul style="list-style-type: none"> SPC のキャッシュフロー計画 SPC のリスクヘッジ方策 	2	10
	5-2	<ul style="list-style-type: none"> 人件費の考え方 	2	
	5-3	<ul style="list-style-type: none"> 用役費の考え方 	2	
	5-4	<ul style="list-style-type: none"> 補修費（法定点検費、補修費、更新費、消耗品費）の考え方 	2	
	5-5	<ul style="list-style-type: none"> 付保する保険 	2	
資源循環・脱炭素 社会形成に 向けた貢献	6-1	<ul style="list-style-type: none"> 二酸化炭素排出量を抑制する運営方法 発電量を極力増加させ、安定供給する工夫 	2	5
	6-2	<ul style="list-style-type: none"> 見学に係る既存啓発ツールの改善及び新設 	3	
地域への配慮	7-1	<ul style="list-style-type: none"> 市内雇用の計画 市内企業への発注計画 市民への対応 	5	7
	7-2	<ul style="list-style-type: none"> 周辺住民に配慮した施設運営の考え方 	2	
その他 (本事業実施にあたっての創意工夫)	8-1	<ul style="list-style-type: none"> 上記以外の要素 	3	3
合 計				70

(2) 点数化方法

各最終審査対象者の提案内容について、図表1「評価項目及び配点」における評価の視点の項目毎に、図表2に示す「評価点の付与の考え方」に基づいてA～Eの5段階評価を行った上で、事業者選定委員会の各委員の審査結果（得点）を平均して算出する。

図表2 評価点の付与の考え方

評価	判断基準	評価点の算出方法
A	・要求水準を超える具体的・現実的な提案が行われており、大きな効果が期待できる。	配点×100 %
B	・要求水準を満足し、具体的・現実的な提案が行われており、一定の効果が期待できる。	配点× 75 %
C	・要求水準を満足している。	配点× 50 %
D	・要求水準を満足しているが、その効果にやや不安がある。または具体的な提案が行われていない。	配点× 25 %
E	・要求水準を満足しているかが明確でない。 ・要求水準を満足しているが、その効果に不安がある。	配点× 0 %

4 総合評価点の算出方法

価格点と非価格要素点から1に示す算式に基づき、総合評価点を算出する。

(例) A社の非価格要素点が60.00点で、入札価格(X)が¥8,980,838,000の場合

$0 \leq X \leq B$ のため

$$\begin{aligned}
 \text{価格点} &= (-3 / 8,980,838,000) \times X + 30 \\
 &= (-3 / 8,980,838,000) \times 8,980,838,000 + 30 \\
 &= 27.00 \text{ 点}
 \end{aligned}$$

$$\text{A社の総合評価点} = \text{価格点} + \text{非価格要素点} = 27.00 \text{ 点} + 60.00 \text{ 点} = 87.00 \text{ 点}$$